

基本目標	基本方向	平成28年度 主な取組状況	平成29年度 主な取組予定	評価※1
1 企業が成長し、地域経済に元気をもたらすまち	(1) 北大阪健康医療都市における国際級の複合医療産業拠点の形成	国立循環器病研究センター、大阪府、摂津市で構成する医療クラスター推進協議会での議論を踏まえ、健都イノベーションパークの進出事業者の募集を行い、一社目の優先交渉権者を選定した。	国立健康・栄養研究所の移転の動向も踏まえながら、複合医療産業拠点の形成に向け、引き続き、健都イノベーションパークの進出事業者の募集・選定を進める。	B
	(2) 市内への企業移転・進出による地域産業の活性化	企業訪問等により企業動向を把握したうえで、企業立地促進奨励金制度の情報提供に努め、制度活用の促進を図った。	企業立地促進奨励金制度のフレームである企業立地促進法の一部改正が予定されており、大阪府と連携を図り法改正に沿った制度を検討するとともに、引き続き、同制度の情報提供及び活用促進に努める。	B
	(3) 創業促進や企業の成長支援による雇用の創出	「すいた創業支援ネットワーク」の三者（吹田市、吹田商工会議所、日本政策金融公庫吹田支店）の役割分担を明確にし、各機関の強みを活かした創業支援に取り組み、総合的な支援体制を整備し円滑な創業につながっている。	「すいた創業支援ネットワーク」の連携強化を図るとともに、ネットワーク以外からの創業者の掘り起しなど、幅広い支援に取り組む。 また、起業家交流会について、引き続き開催テーマ等の充実化を図り、参加者数の増加につなげて創業者の育成や交流に努める。	A
	(4) 魅力ある商業地づくり	商店街の現状についてヒアリング等を行い、活性化に向けて会員間の協力や今後の商店会及び地域の活性化のため、専門家の派遣等を行い、活動について支援を行った。	商店街活動や人材育成に向けての要望等が多くあるため、現状を把握しながら、商店街の魅力向上に繋がる空き店舗活用など、具体的に進められるよう商工会議所と連携しながら支援を行う。	B
2 「住む」「楽しむ」新たな魅力が見つかるまち	(1) 都市魅力の強化と戦略的な情報発信	シティプロモーションについての基本的な考え方と戦略の方向性を示す「吹田市シティプロモーションビジョン」の策定に取り組んだ。 情報発信プラザでは、展示フェアの連動企画として、他施設の紹介や誘客など、プラザから市内へ回遊のきっかけづくりを進めた。 また、ガンバ大阪ホームタウンの推進に関して、2016シーズンの来場者数は67万人を超え、目標来場者数を達成した。	アクションプランの策定や「（仮称）吹田市シティプロモーションアドバイザー会議」の設置、市民ワークショップの開催、プロジェクトチーム「enZINE」の枠組拡大など、シティプロモーション推進のための取組を引き続き行っていく。 また、三井不動産やEXPOCITYの商業施設、本市の友好都市、大学、事業者等と連携し、情報発信プラザの広場を活用したイベントを実施し、本市のPRを積極的に展開していく。	A
	(2) 環境に配慮した快適で機能的なまちづくり	安全・快適な道路環境の整備として、「吹田市自転車利用環境整備計画」を策定した。 また、千里南公園パークカフェについて、事業者ヒアリングを行い、コミュニティ空間となるカフェを設置する事業者を募集するための募集要項を策定した。 地球温暖化対策新実行計画（改訂版）に基づき、啓発冊子の作成及び配布、セミナー等の開催など、地球温暖化に係る取組を実施した。	安全・快適な道路環境の整備として今後10年を目途に自転車走行空間の整備を、計画書に基づいて実施していく。 みどり環境の継承と充実に向け、集合住宅のベランダ部分を管理組合が自主的に花で飾ることを誘導・支援するため、「彩（いろどり）団地助成制度」を創設・運用する。 また、パークカフェ事業者と協定を締結し、カフェを設置する。 環境先進都市をめざした取組として、地球温暖化や生物多様性の啓発に取り組む学生ネットワークを設立し、運営を開始する。	B
3 就職・子育ての希望がかない、未来を担う人材が育つまち	(1) 若者の地元就職への支援と働きやすい環境の整備	大学生と市内企業のマッチングを目的に、「吹田合同企業説明会」及び北摂地域における広域の「合同企業説明会」を開催した。 また、ワーク・ライフ・バランスに関する啓発として、事業者に対する研修会の実施、パンフレットの作成・配布に取り組むとともに、市民向けの意識啓発講座を5回実施した。	大阪労働局、大学、地域金融機関及び商工会議所等との連携による就職説明会や企業説明会などを開催することで、市内外の学生など若い世代に対して魅力ある市内企業の情報発信や市内企業とのマッチングの場の創出に取り組む。	A
	(2) 子育てしやすい環境の整備	平成27年度に導入した教育・保育施設や子育て支援施設等の検索システムについては、アクセス数が約25万件となり、前年度に比較し、倍増した。 また、留守家庭児童育成室については、4年生までの対象学年の引き上げや、ニーズの高まりによる児童数の大幅な増加に対応するため、施設の確保・整備を推し進めた。 加えて、認可保育所1か所、小規模保育事業13か所を設置し、保育の量的拡大を図った。	3歳児からの受皿として、幼稚園の認定こども園化を進めるとともに、検索システム等を活用しながら、利用者が教育・保育施設や子育て支援事業を円滑に利用できるような支援をする。 また、全ての児童に多様な体験・活動の機会が増えるように、「太陽の広場」の充実を図り、開催回数の増加を目指す。 加えて、認可保育所7か所、小規模保育事業等19か所の設置を予定している。	B
	(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援として、妊娠届出の窓口を保健センターと南千里分館に集約し、全ての妊婦の方に専任保健師が面接し、相談に対応するとともに、必要な方へは継続支援を行っている。	新規で実施する産後ケア事業、産前・産後サポート事業を着実に実施するとともに、市民のより身近な場所で定期的に相談会を実施するため、本年度中に高野台のびのびルームを開設する。	A
	(4) 未来を拓く教育の充実	読書活動支援者の配置期間及び時間の拡充を行うとともに、小・中学校ともに英語指導助手を派遣し、ネイティブの発音に慣れ親しませることで、児童・生徒の英語力の向上を図った。	英語指導助手の増員を図り、中学校では、配置期間を拡充することで、児童・生徒がネイティブの発音に触れる機会を増やしていく。	B
4 誰もが安心して暮らせる「高齢社会」が実現するまち	(1) 健康・医療のまちづくりによる健康寿命の延伸	国立循環器病研究センター等の協力を得ながら、健康をキーワードに多世代が集う健康増進公園の整備を進めるとともに、「健康・医療のまちづくり加速化プラン（健都版生涯活躍のまち基本計画）」を策定した。 また、「吹田市健康ポイント事業」として、特定健診などの各種健診・がん検診の受診や健康に関する講座・イベント等への参加など、健康に関する意識の向上及び主体的な健康づくりに向けての行動変容を促した。	健康増進公園の整備を進めるとともに、（仮称）健都ライブラリー等も活用した健都ならではの取組について、市民や来訪者の健康への気づき、学び、楽しみにつながる取組の検討を深める。 また、たばこ対策の総合的な推進のため、新たに禁煙治療に要した医療費の一部助成制度を開始するとともに禁煙及び受動喫煙防止に関する普及啓発等を実施する。	B
	(2) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり	地域包括支援センターを増設するとともに、通院が困難な高齢者への新たな移動支援として、タクシークーポン券事業を開始した。 また、医療的ケアが必要な重度障がい者が入居するグループホームに対して、医療職の配置に対する補助項目を新たに追加、補助を実施した。	ふれあい交流サロンを含め身近な地域における高齢者の居場所について、多様な団体による取組の状況を踏まえ、周知や充実を図る。 また、認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チーム業務を開始し、認知症の人やその家族の支援体制を整えるとともに周知に努める。	B
	(3) 地域コミュニティの強化による安心安全のまちづくり	災害時要援護者名簿の更新を半年ごとに行うとともに、小学校地区における防犯カメラ（12小学校区に15台）、公用車におけるドライブレコーダー（36台）の設置に取り組んだ。	地域の見守りの目を拡充するために、市域全域に防犯カメラの設置を進めるとともに、市内における防犯目的でのドライブレコーダーの普及促進を行う。	A
	(4) 市民ニーズの変化に応じた都市の形成	持続可能な都市経営の推進に向け、「吹田市公共施設総合管理計画」、都市機能誘導区域を設定した「吹田市立地適正化計画」を策定した。 また、広域連携による施設利用の検討として、図書館の広域連携相互利用を一斉に開始するための課題整理に取り組んだ。	図書館について、北摂地区7市3町で協定書を交わし、平成29年の早い時期に相互利用開始を目指している。	A

※1【評価】について

A：目標達成に向け取組が進んでいる または KPI が前進している

B：目標達成に向け取組の強化が必要 または KPI が後退している

C：方針、具体策等を検討中

D：未着手またはアクションプランの見直しが必要